
異世界を渡る男の娘

大雅

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

異世界を渡る男の娘

【Nコード】

N2131Y

【作者名】

大雅

【あらすじ】

テンプレのごとく転生して原作に介入してみようと考えてる男の娘
まずは天地無用の世界へ
一応えっちとキーワードに入れましたがそうなるかは分かりません

プロローグ

今、俺は真っ白な空間に胡坐をかきながら座っている。

「どこだココ・・・？」

んー・・・とコメカミを叩きながら記憶を思い出そうとしていたら後ろから声が聞こえてきた

「あのースイマセン？」

振り向くと其処には、女性と幼女が立っていた。

「あつ、やつと気付いてくれましたね。私はヤハウエ、神などをしてします。」

ヤハウエと名乗った女性が急に自己紹介を始めたのを聞きながら、なぬ・・・神？とか考えていたら

「この子はイリス、生まれたばかりなので感情があまり出てないけどよろしくね？」

「ヨロシクネ？」

と見た目4〜5歳の幼女の方も、自己紹介を続けていく。

「あのー・・・話が急すぎて、頭がついていけないんですけど。」「何処です？」

真っ白い空間で気が付く 急に後ろから話しかけられる 急に自己紹介が始まる

普通にこんなことが起きたら頭が付いてこないと思う。

「ああ、そうですね？まずはどこから言えばいいかしら？」

「イイノカシラ？」

などと言いながら神様？（自己申告のみ）とイリスちゃんが首を傾げる。

そして、イリスちゃんの背中を押し俺の前に出させると

「実は、この子に仕事を教えようと思って連れて来たら、あなたの寿命の書類に落書きしちゃって

あなた死んでしまったのよ」「

「ゴメンナサイ」

実にサラッと衝撃の事実を言うヤハウエさんと謝るイリスちゃん

なんか、よく読むSSなどにありそうなテンプレ展開に行きそうな雲行きになってるなあと考えていたら

「こいうのも酷なんだけど、今回のことであなただは輪廻の輪から外れてしまったてどうしようかなと思ってるのよね」

「そうなんですか？ところでイリスちゃん、ちょっとおいで？」
と言いながら手招きしてみる

「？」

トテトテと歩いてきたところを持ち上げ、胡坐の上に座らせ後ろから抱きしめあごを頭の上に置く

思っていたよりも抱き心地がよく、イリスちゃんの方も嫌がるそぶりも見せないどころか

背中を預けウトウトとし始めている。

その後もヤハウエさんと今後どうするかとか話してるうちに、何となくこつこつという転生モノのSSなどを読んだ
と言う話になったところでヤハウエさんが

「それ、いいかも？」

と言い出しテンプレよろしく願い事3個までなら叶えるよ？とのこと
「それじゃ、一つ目は色々な世界（特に漫画とかの世界）を見てみたいから任意で世界を渡るようにできる？」

「んーできるみたいよ？」とヤハウエさん
できるみたい？って誰に聞いたの？とか思いながらも

「二つ目は、情報さえあればどんなこともやれる様になる【学習能力】とかできる？」

「んーできますね」と軽く言ってくる

「三つ目は、アカシックレコードを覗けるようにして」

「アカシックレコードですかぁ・・・」ちよつと待ってくださいね

と、何処かに確認をとる様な感じで
虚空を見つめて、そして「OKだそうです」と一言
やっぱ誰かに聞いているなあとか思いながら、胡坐の上ではイリスち
やんがスヤスヤと寝てたりする。

その後も少し能力のことを話しながら、世界の渡り方・アカシック
レコードへの繋ぎ方などのやり方を
教わる

そしてこの場所は、世界とは隔絶された場所らしく最初はヤハウエ
さんが送ってくれるとの事

それならばと「最初は天地無用の世界に行きたい」と言ったら「わ
かりましたあ」と

真下に黒い穴……

俺は……イリスちゃんごと落ちていきました!!

1話・初めはやはり落ちるのがテンプレ？笑

ヒューーーーン

音の通りただ今絶賛落下中です

一緒に落ちたはずのイリスの姿が無いのに気が付きましたがそれどころじゃないです

下の方に山に囲まれた小さな湖が見えていました

「この高さは死ねるうう~~~~」

ザッパーーーン

「ん、美星殿かい？」

と、湖のほとりにある家から赤い髪の少女が出てきました

「鷺羽おねえちゃん？どうかしたの？」

と、青い髪をツインテールにした少女がその後をついて来ました

「いやね？警報も鳴らさずに湖に何かが落ちてきたみたいでね？」

美星殿かな？と鷺羽と呼ばれた少女が答えていた

「鷺羽おねえちゃん！！あそこ！！」

湖の中央辺りに浮かぶ人影を見つけた青髪の少女が叫んだ

「ふむ、そのままにはしておけないね。砂沙美ちゃん家に上げるからタオル持ってきてくれる？」

「分かった！！」

と砂沙美と呼ばれた青髪の少女はスリッパをパタパタさせながら家の中に走っていった

ムクッ

ベットの上で上半身を起こし、寝ぼけながらも知らない部屋にいる

ことに気が付き

「あー・・・何処ココ？」

目を擦りながら辺りを見回すと、椅子に座りながら空中に浮いた半透明の板状の物にカタカタカタと何かをしている

赤い髪の少女がいた。

「お、起きたね！まずは、私の名前は白眉鷺羽　はくびわしゅう
鷺羽ちゃんって呼んでね！」

あとは、あなたの名前と、家の前の湖に落ちてきたのだけれど、どうしてというよりも何処から落ちて来たのか分かる？」

「えっと・・・名前は雅　ミヤビ　？神様に落とされた？って感じかな？」

と言いながら、『落ちてきた』と言われたの思い出して自分の体に怪我が無いかを確認して違和感を感じた

「えーと、鷺羽ちゃん？鏡が何か無いかな？」

「何かおかしな事でもあったかい？」と何処からか出した手鏡を渡してくれた

「あー、やっぱりと言うかテンプレと言うか、こんなことになったか」

鏡に映った顔を見るとそれはさっきまで一緒にいたイリスの顔が映っていた

体のほうもイリスちゃんの体みたいで、自分の目で確認できる範囲でも手足が小さくなっているのに気が付く

そして、軽く体を弄り体が男性のものだと確認（自分的にココ重要）をして安堵の息をする

「ところで、神様に落とされた？とか言ってたけどこっちにも分かる様に説明できるかい？」

説明か〜と思いつながらこれからどうするか考え、今できることを考える

「そつだなあ、鷺羽ちゃんは異世界や輪廻転生とかって信じる？」

「ふむ、異世界ねえ」と言いながら目を細めこちらの考えを読もうと見ている

「まあ、高次元の三神の一人の鷺羽ちゃん力なら輪廻から外れた魂も、もう一度生を与える事はできそうだけどね」

そう言うと鷺羽ちゃんは目を見開き驚いたが、すぐに面白そうな顔になって聞いてきた

「ふむ、雅殿はそれを知りながら私をどうしたいのかな？」

「そうだねえ・・・鷺羽ちゃんの下でお勉強したいかな？」

そんな風に笑いながら返したら、鷺羽ちゃんはまた少し驚いた顔をした後面白いものを見たような笑顔で

「いいねえ、色々と雅殿に私の知識と技術を伝授しようかね」と笑いながら返してきた

「そだ、鷺羽ちゃん！大事なことがあった！！」と神妙な顔で鷺羽ちゃんに話しかける

「どうしたんだい？そんな神妙な顔して、なにかあったかい？」

「うん、とっても大事なことを思い出した」と鷺羽ちゃんに手招きをする

「ふむ」と真剣な顔をして鷺羽ちゃんが顔を近づけてきたその耳に囁く

「住む所どころか何も持って無いや」と一言

「そういえば着の身着のまま、落ちてきてたねえ・・・よし！住む所はここで暮らせるように私も口を利こうかね

それで、扱いは私の弟子でいいかな？」

「鷺羽ちゃんありがとう」と抱きついたら掛かっていたシーツがはだけた

そこには美しい少女の顔に、真っ黒な光沢のある髪を腰の辺りまで伸ばし透き通る様な真っ白い肌をした男の体

湖に落ちたため濡れた服を脱がされ、体を隠すものも無くそのすべてをさらけ出していた

コンコン

「鷺羽お姉ちゃん、さっきの子起きた〜？」と青い髪の子が入ってきて固まった

そこには裸の子共が鷺羽に抱きついてる姿がある

「えーと・・・男の子？」と裸の体をくまなく見た砂沙美はボンとなりそうなほど顔を赤らめまた固まってしまった

「あーひとまずシーツを被ってくれるかな・・・後、この子は砂沙美ちゃんねココと一緒に住んでいる一人だからよろしく頼むよ」

鷺羽はシーツを被るように指示した後、砂沙美ちゃんの方に行き簡単な説明をし服を受け取っていた

「雅殿は、服着たらまたチョット寝ときな一応ココの家主の天地てんち 殿に話を通してくるから」

そう言い鷺羽は部屋を出て行った

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2131y/>

異世界を渡る男の娘

2011年11月16日20時11分発行